

## 頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム

酸化ストレス仮説に基づく新規精神疾患創薬のための国際共同研究（整理番号:S2603）

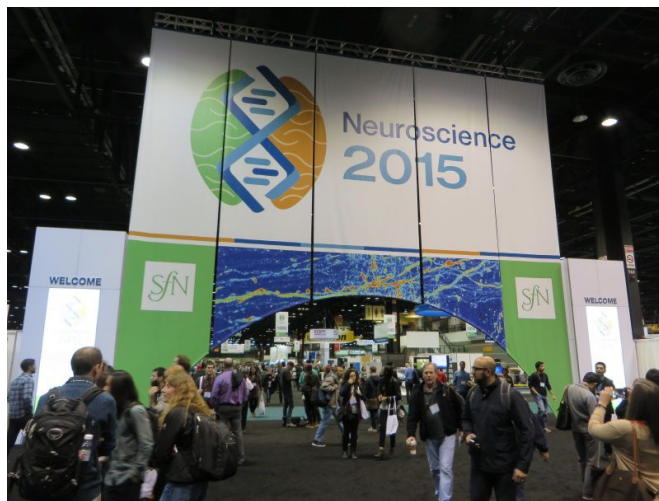
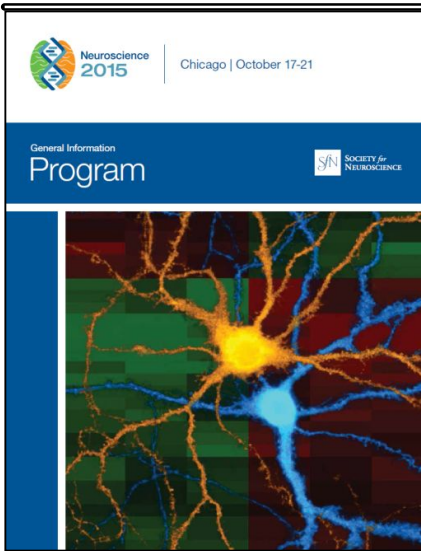
### 【派遣者近況報告】

タイトル：トロント留学と国際学会参加

派遣者：高村 明孝（大阪大学大学院連合小児発達学研究所）

派遣先：トロント大学神経変性疾患研究所

報告日：2015年10月29日



Neuroscience 2015要旨集の表紙(左)と会場内の様子(右)

2013年からカナダのトロントで留学を開始し、早くも2年が経過しました。私が所属しているトロント大学神経変性疾患研究所のFraser研究室では、アルツハイマー病をはじめとした神経変性疾患の研究を中心に、脳の発達と精神疾患の研究など幅広く行っています。こちらでは研究所内だけではなく、トロント大学周辺に集まる病院や研究施設のネットワーク(University Health Network: UHN)を利用して研究を進めています。そのため、様々な最先端の技術・設備を利用することが可能です。また、Fraser研究室は日本・アメリカ・イタリアなどの数々の研究室と共同研究を行っていることから、世界中のトップクラスの研究者と接する機会がたくさんあり、日々新たな刺激・情報を得ることができます。現在私が行っているタンパク質翻訳後修飾であるSUMO化に関する研究では、特にニューヨークのColumbia Universityと共同研究・情報交換を活発に行っており、これまでの研究成果を10月にシカゴで行われたNeuroscience2015 (Society for Neuroscience)において、“Sumo1 overexpression affects synaptic function, spine density and memory”の演題名で発表いたしました。発表時には世界各国の多数の研究者に集まりいただきました。活発な議論を発表時間いっぱいまで行い、新たな研究アイデアを得ることができました。